

令和5年度 学校自己評価(2022.9~2023.8) 結果

評価項目の達成及び取組状況

【目標達成率】 A：80%～ B：60%～79% C：40%～59% D：40%未満

(1) . 教育理念・目標 (学校全体)

評価項目	達成値
①理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	A
②学校における職業教育の特色は定められているか	A
③理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが、生徒・保護者等に周知されているか	B
④教育目標、育成人材像は、卒業後の社会のニーズに向けて方向づけられているか	B

- ① できていること、維持すべきこと
- ・職業教育を通し、学び直しと検定合格で自信を付けさせることができている。
 - ・理念・目的・特色などは体験入学や入学説明会を通して入学希望者や保護者に周知できている。
- ② 問題点や課題と今後の改善方策
- ・商業分野の就職は幅が広いので、基本的な生活習慣や忍耐力、コミュニケーション力をしっかり身につけられるよう、特別活動を有効活用する。
 - ・この先求められる職業教育を分析し、対応していく。
 - ・本校だけの問題ではないが、すぐ離職しない力がつくような教育が必要。卒業生から就職して感じたことや高校生のうちに取り組む機会をつくる。

(2) . 学校運営 (運営委員)

評価項目	達成値
①目的等に沿った運営方針が策定されているか	A
②事業計画に沿った運営方針が策定されているか	A
③学校として、また地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	A
④教育活動に関する情報公開が適切になされているか	A
⑤情報システム化等による業務の効率化が図られているか	B
⑥卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	B
⑦法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	A
⑧個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	A
⑨学校自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	A
⑩学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	A

- ① できていること、維持すべきこと
- ・理念に沿って校長がしっかりと運営方針を立てている。
 - ・ホームページや Instagram、校長通信等を利用して情報発信している。掲載写真は個人を特定されにくく加工し、個人情報にも配慮している。
 - ・生徒会による地域貢献の活動が増えてきてとても良い。体験入学の時にも保護者の方からお褒めの言葉をいただいたので、見ている人は必ずいるので今後も続けていく。
 - ・生徒の特性に合わせて柔軟に対応している。
- ② 問題点や課題と今後の改善方策
- ・学校職員全体での方向性を定期的に確認する研修等を実施し、意識を高める。
 - ・世間に対して専修学校高等課程の認知度をさらに上げていく必要がある。Instagram の活用や他のツールの検討。
 - ・自己評価をしっかりと活かせるよう、PDCA サイクルを効率的に回すような仕組みをつくる。
 - ・個人情報保護の定期的な注意喚起。
 - ・事業計画の点検、見直しを行う。
 - ・老朽化施設の補修対策。
 - ・ICT化するには教員の PC 台数を増やすのみでは難しく、費用をかけてシステムから変える必要がある。

(3) . 教育活動 (教務)

評価項目	達成値
①教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	A
②確かな学力の育成、学力向上につなげることができているか	B
③カリキュラムは体系的に編成されているか	A
④コース制によって特徴を活かした教育活動が行われているか	A
⑤授業評価の実施・評価体制はあるか	B
⑥成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	B
⑦資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	A
⑧資格取得率の向上が図られているか	A
⑨施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	B
⑩教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	B

① できていること、維持すべきこと

- ・検定取得率を上げることができている。パソコン室の開放により、やる気のある生徒が練習できる環境がある。
- ・中間試験をなくし小テストを増やした。着実な学力定着への取組をしている。
- ・スタディサプリを導入し、個人の進捗で学習を進めることができる仕組みがある。
- ・Wi-Fi 環境がほぼ整った。
- ・学び直しで多くの生徒に自信をつけることができている。
- ・コース選択制の特徴を活かした専門的な授業を行うことができている。
- ・プログラミングコースには、プログラミングを学んでいるからこそ取れる検定を授業内で取得でき、レベルによって履歴書に記載できる。
- ・パソコン設備やソフト等を定期的に最新のものを導入している

② 問題点や課題と今後の改善方策

- ・施設設備（一人一台端末、電子黒板やプロジェクター、体育関係）の整備。また、老朽箇所の補修・改修。
- ・インターネットの安定化。
- ・システムを含む ICT 化の推進。
- ・教員の資質向上。教科指導面は研究授業の有効活用。生徒指導面・教科指導面共に、研修の活用やセミナー案内の充実化。
- ・カリキュラム編成を踏まえて、各教科で教育内容の PDCA を行い、授業の質の向上を計る。
- ・資格・検定取得に注力しすぎることがあるため、学習内容のバランスを点検する必要がある。
- ・全科目共通の評価基準の検討。
- ・資格取得に対する意欲が生徒によって大きな差があるため、その差を埋める方策の検討・実施。
- ・スタサプをもっと多くの生徒が積極的に活用するような仕組みをつくる。
- ・コースの差別化をより意識した授業内容の見直し、更なるカリキュラム変更による専門的な教科内容の検討。
- ・学校全体で共通した授業評価の検討。

(4) . 生徒指導等 (生徒指導)

評価項目	達成値
①基本的な生活習慣の確立のために取組が行われているか	B
②生徒・保護者が相談しやすい体制は組まれているか	A
③退学率の低減が図られているか	A
④生徒の健康管理を担う組織体制はあるか	B
⑤生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	A

① できていること、維持すべきこと

- ・今年度から始めた「教育相談」や保護者への連絡等を通して良好な関係を築いている。
- ・カウンセラーの先生に來校してもらい、相談できる体制を取っている。
- ・学校周辺清掃や地域行事のボランティアをとおして積極的に地域貢献活動を行っている。
- ・無理のないボランティア活動を目指して、少しずつ形を変えて活動できている。

- ・生徒が勉強面以外でも活躍できる場が沢山ある。
- ・時代に応じ、生徒の健康なども考慮した校則の見直しなどを行っている。

② 問題点や課題と今後の改善方策

- ・体調面、精神的、怠け等個々の理由による欠席・遅刻の多い生徒に対する指導の検討。欠席・遅刻日数は進路にも大きな影響を及ぼすことを1年生からしっかり伝える。
- ・風紀面、生活面等学校生活全般において、「楽(たの)」しい学校が、「楽(らく)な学校」にならないよう定期的に確認する必要がある。
- ・カウンセラーさんとの面談枠や、日程を増やす。
- ・ボランティアは学校だけの活動ではなく、地域住民の方と一緒に活動を検討する。
- ・生徒会以外の生徒にも積極的ボランティアに参加してもらえるような呼びかけ。
- ・生徒、保護者が相談しやすい環境づくり。
- ・学校が楽しいと思っていない生徒(遅刻、欠席が多い生徒)をどのように学校に登校させるか。

(5) . 進路指導 (進路指導)

評価項目	達成値
①個々に見合った進路指導ができていますか	A
②就職率の向上が図られているか	A
③保護者と適切に連携しているか	A
④職場体験ができる教育体制を整備しているか	A
⑤生徒に寄り添った進路指導ができていますか	A
⑥卒業生への支援体制はあるか	B

① できていること、維持すべきこと

- ・1年生から職場体験、合同企業説明会への参加を勧めることで働くことへの意識づけをする機会ができていますし、姉妹校をはじめ進学も視野に入れやすくなっている。
- ・卒業生の就職先に訪問して、声掛けをしている。
- ・職場実習先の開拓、社会人講座の実施を年々充実させている。
- ・個別に保護者と連携を取りながら、進めることができています。

② 問題点や課題と今後の改善方策

- ・(1) . 教育理念・目標 (学校全体) に記載している問題点や課題
- ・卒業生の追跡方法の検討。
- ・「思っていた会社と違う」というミスマッチがないように相談を繰り返してはいるが、実際には働いてみないと分からない点もあるので、卒業生への支援方法の検討。
- ・生徒達自身に自覚させるために外部講師、社会人講師、卒業生の話を聴く機会をつくる。
- ・保護者向け進路説明会の開催を望む声がある。PTA総会等を上手く活用していく。
- ・進路活動に遅刻・欠席が与える影響を、1年生から生徒・保護者に意識してもらおう取組を行う。
- ・遅刻や欠席をする生徒は、進路に対する意識が低い。いかに将来に目を向けさせるかが課題。就職率の向上には欠席・遅刻への意識改善が必要。また、基本的な生活習慣の確立には保護者の関りが非常に大きく影響するため、より保護者に関わりを持っていただくための方法を検討する。
- ・『就職・進学100%保証』の見直し。

(6) . 環境整備等 (総務)

評価項目	達成値
①安全・安心な学習環境づくりができていますか	B
②防災に対する体制は整備されているか	B
③式典、表彰、備品管理・発注は適正に行われているか	A

① できていること、維持すべきこと

- ・検定表彰は生徒の達成感を増幅させていて良いと思う。
- ・備品は残数を日々確認して発注を行なっている。また、初めて購入するものは、見積り等を取り値段や納期の適正を確認した上、発注している。
- ・落ち着いた生活が送れるように、教室整備が行われている。各教室の机について、がたついて

- ・いたり、とげだっているものもある。ひどければ交換したり、年度終わりに点検をしている。
- ・毎年、教職員対象の防災訓練やAED講習がある。

② 問題点や課題と今後の改善方策

- ・施設や設備の劣化・老朽化。定期点検、メンテナンスが必要。
- ・災害に備えた各教室の整備。
- ・緊急地震速報などがあつた時、校内放送を徹底する。
- ・備品補充などは、担当者以外でもできる。気遣い、思いやりが大切。
- ・備品管理・発注はもう少し早めにする。
- ・防犯対策。防犯指導。教職員のホイッスル所持。より安全になるような更なる工夫。

(7) . 生徒の受入れ募集 (渉外)

評価項目	達成値
①生徒募集活動は、適正に行われているか	A
②生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	A
③学納金は妥当なものとなっているか	A

① できていること、維持すべきこと

- ・体験入学を多数回実施している。
- ・在校生に満足してもらえる学校であること。在校生への指導が保護者の安心感につながっている。
- ・ターゲットごとに内容を変えて体験入学を実施している。個別相談の時間で保護者の方の不安などを直接聞くことができている。
- ・学納金は、国や県の補助金もあり、無理のない金額になっている。
- ・中学校訪問や、出向いての進路説明会を何度も行い、体験入学への参加者数を増やしている。
- ・どのような生徒を募集しているのか明確に提示されている
- ・外部の評判がよく特に“学びなおしができる学校”のイメージが年々浸透している。
- ・SNSによる発信を始めた。
- ・令和6年度入学生の入試よりネット出願を取り入れることで、入学生の出願手続きが簡素化できた。また業務効率化にもつなげることができている。

② 問題点や課題と今後の改善方策

- ・多様化する生徒の受け入れ体制をさらに強化する必要がある。
- ・物価上昇も考慮した、学納金額の見直し。必要な経費は徴収せざるを得ない。
- ・体験入学などの参加数が増えているため、皆様にしっかり理解していただくための方法、内容の見直し。
- ・軽減方式の検討。
- ・体験入学の内容検討。パソコン実習以外の体験授業・部活動体験などの検討。
- ・入学前の保護者に対して、本校が「できること」と「できないこと」をはっきり発信していくことが必要。中には特別支援学校と同じようにサポートがある学校だと思っていられっしやる保護者様もいて、分け隔てなく接する教職員との間にギャップがある。
- ・校長先生に頼らない宣伝力の創出。情報収集・情報発信の仕組みづくり。
- ・対応が困難な特別支援生徒の受け入れ対策。
- ・1クラスの人数を減らし、一人ひとりに目が届くようにする。
- ・教職員の確保。

(8) . 財務 (事務室)

評価項目	達成値
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	A
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	A
③財務について会計監査が適正に行われているか	A
④財務情報公開の体制整備はできているか	A
⑤生徒の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	A

- ① できていること、維持すべきこと
 - ・収入源の確保（生徒数の確保）
 - ・予算は各部で編成され、ヒアリングを経て承認されており妥当である。
 - ・定期的に、内部監査・公認会計士監査を行っている。
 - ・学園のホームページ等で財務情報の公開を行っている。
 - ・“何でも相談しやすい事務室”という環境ができている。
 - ・修学支援金、授業料軽減など、公共の学費支援の周知、申請のサポートができている。

- ② 問題点や課題と今後の改善方策
 - ・全職員の経費節減に対する意識統一が必要。施設の老朽化による突発的な支出もある為、必要な個所に費用をかけられるよう、今あるものを大切に使い、無駄を省き、節約を常に心がける。
 - ・学生・生徒から選ばれる学校であり続けられるよう、教育の質の維持と学納金のバランス（授業料等は高くてもいけないし、安くてもいけない）を常に検討する必要がある。